

1年生入学時のCRT 正答率(%)	結果の考察 (定着できているところ、不十分なところ等)	観点ごとの 授業計画の具体的な方策
関心・意欲・態度 66.4% 65.7% (全国)	全体平均をやや上回っている。意欲を持っている生徒は、読書量も多く、漢字・意味調べの宿題なども積極的にやっている。しかし、中には、漢字・意味調べの宿題なども提出がままならない生徒もいる。	授業のUD化をはかり、語彙力をつけられるように、各観点をバランスよくとり入れて授業を構成していく。さらに、読書活動を通して言語に数多く触れる機会を作るため、読書カードを活用していく。
話す・聞く能力 70.4% 70.8% (全国)	全国平均をやや下回っている。自分の意見を発表する力や、話を聞いてそれを理解する力は繰り返し練習をしていく必要がある生徒が多い。	スピーチを活性化させ、自分の意見を発表する場面を適宜設けていく。さらに、小グループで話し合いの時間を設定することにより、友達の意見を聞き、自分の考えを深めていく機会とする。
書く能力 62.8% 64.4% (全国)	全体平均としては全国を下回っている。文章を書くことに苦手意識を持っている生徒が多く、報告文など条件付きの文章を書くことができていない。	順を追って分量を増やしていき、決められて時間の中で規定量の文章が書けるようにしていく。また、作文の添削をし、適切な表現技法が使えるようにアドバイスをしていく。
読む能力 55.0% 55.7% (全国)	全国的にも他の観点に比べると低い正答率である。文章に書かれていることの内容を理解する力は、今後さらにつけていく必要性がある。	教科書を中心に、音読の時間を適宜取り入れていく。また、自ら内容理解にたどり着けるように、発問を工夫する。自発的に読書の時間をとれるよう、読書カードをも活用していく。
言語についての知識・理解 68.9% 69.4% (全国)	全国平均より下回っている。小学校程度の漢字の「読み書き」が定着していない。作文などでひらがなの多用、誤字が目立つ。語彙力に乏しく、使いこなせる言葉数が限られている。	新出漢字練習や意味調べなど、自発的な習得を促す。また、教材の文章で使われている言葉の意味などを確認することにより、意識づけをする。類義語、対義語、擬声語、擬態語、季節にかかわる言葉などを学ぶ機会・時間を取り、語彙数を増やし、豊かな表現を目指させたい。
上記の方策を生かした各学年における日々の授業の具体的な改善プラン		
第1学年	・文章を書かせる時間を積極的に設定し、書くことに慣れさせる。・漢字、意味調べの自発的学習を定着させていく。・応用力を付けさせるため、教科書以外の演習の時間も適宜設けていく。・読書の習慣を身につけさせる。・スピーチを充実させ、聞く力・話す力をそだてていく。	
第2学年	・漢字練習、意味調べ、音読の自発的学習を促す。また、朝学習で漢字テストを行うことにより、家庭学習の定着を図る。・語彙・書くことについて、随時時間を確保し、身につけさせていく。・読書の習慣を身につけさせる。・グループで話し合う時間を設け、話す力、聞く力を育て、問題の共有化を図る。・問題演習を適宜行い、応用力を身につけさせる。	
第3学年	・1年次から授業規律が身につけており、積極的な発言、発表が多くみられる。この姿勢をさらに継続させていきたい。・漢字について家庭で計画的に練習する習慣ができてきたが、正確に覚えて活用する力がやや劣るので、小テストの回数を増やすなどに対応する。・全国学力学習状況調査において、「話す・聞く」のみ全国および都平均を下回った。今後授業においてスピーチやグループ協議を充実させたい。・2学期末からは受験を意識して、長文読解の演習を行う。	

1年生入学時のCRT 正答率(%)	結果の考察 (定着できているところ、不十分なところ等)	観点ごとの 授業計画の具体的な方策
関心・意欲・態度  65.1%  67.7% (全国)	地理・公民分野の関心・意欲・態度は全国平均よりも高い。歴史的分野に関する問題は女子の得点率何時は全国より高い一方、男子の得点率が全国よりも低く、関心・意欲が少なく苦手とする生徒が多いと考えられる。	言語だけの指導に偏らず、視覚的情報を用いた授業を展開し、生徒の興味・関心を高める努力をする。また身近なニュースなどを取り上げ、生徒にわかりやすく説明し、社会科全体に対する関心・意欲・態度を高めていく。
社会的な思考・判断  66.0%  68.4% (全国)	資料や知識を基とする問題は答えられるが、社会的背景や因果関係を基とする「なぜか?」「どうしてこのような手段をとったのか?」など考える問題になると正答率は低くなる	授業の中での発問を工夫し、最初は考えやすい問題を生徒に出し、自信を付けさせていく。また比較的得意としている歴史的分野で、考える問題を多く設けて、考える問題に慣れさせていく。事象が発生する背景に目を向けるよう指導する。
資料活用の技能・表現  69.0%  66.6% (全国)	資料から分析する能力が女子に比べて男子が低い。またグラフなどの問題であることがわかると、あえて無回答で提出する生徒もいる。グラフの読み取りなどに苦手意識をもつ生徒が多いと考えられる。	授業の中で、地図やグラフを用いた授業を多く設け、生徒たちに慣れさせていく。また、資料を見て解く簡単な問題を用意して、資料問題に対する苦手意識をなくしていく。
知識・理解  62.3%  60.1% (全国)	社会的用語を覚え答える知識・理解の能力は高い。覚えた社会的用語を確実に定着させていくことが課題である。	単元が終わるごとに確認テストを行い、社会的用語の習得を確実に身に付けさせていきたい。また日頃からの家庭学習を習慣付けるために、毎授業宿題(ノートまとめ)を出すようにする。
上記の方策を生かした各学年における日々の授業の具体的な改善プラン		
第1学年	社会科に対する関心・意欲・態度を高めることを第1の目標として、「社会科が楽しい、おもしろい。」と生徒が思える授業を展開していく。そのためにも、言語だけの授業に偏らず、視覚的教材を多く取り入れると同時に、生徒自らが調べ発表できる時間を多く設けていく。	
第2学年	各項目について、取り上げる教材を工夫、検討し、生徒の興味・関心を高める努力を行う。特に地理的分野では、調べ学習などを通して資料の読み取りと作成について時間をかけて取り扱う。また新聞記事を活用し歴史的分野も含めて社会の出来事に関心を持てるようにしていく。	
第3学年	歴史的分野では、実際の映像やICT等も活用して、生徒の興味・関心を高める教材の工夫を行う。また、公民的分野では、時事問題などを引き合いに出し、より具体的なイメージとして捉えさせる工夫を行う。さらに、話し合いや考えたことの記述など、言語活動にも力を入れる。	

CRTとは、4/19に1年生で実施された、Criterion-Referenced Test(目標基準準拠検査)のことです。

平成26年度 教科別 日々の授業改善策 (国語・社会・数学・理科・英語)

(日野市立日野第一中学校 教科名 数学)

1年生入学時のCRT 正答率(%)	結果の考察 (定着できているところ、不十分なところ等)	観点ごとの 授業計画の具体的な方策
関心・意欲・態度  62.7%  63.7% (全国)	全国平均より平均が下回っている。昨年65.2%と比較しても、小学校から入学してくる段階で、すでに苦手意識を持っている生徒が見られる。数学に対する学習意欲や態度が心配である。	生徒が興味、関心を持てるよう授業の導入やICTを活用して授業展開を工夫して、学習内容がわかるようにしていく。また生徒が学習目標を持ち、達成感もてるよう指導内容の焦点化をしていく。
見方・考え方  50.7%  49.7% (全国)	基本計算ができていてもそれを使ったり問題を考えて、応用することが苦手な傾向にある。また数学の文章から読み取って、順序立てて考えることがうまくできない生徒が見られる。	なぜ、そうなるのかということをつまみ解いていく問題に対して、どのように考えて問題の解決をしていくのかを互いに意見交換するなどその過程を発表しあった授業を進めていく。文章題や応用問題を通して考える力をつけさせる。
表現・処理  64.6%  64.5% (全国)	小学校で学んだ四則計算などの計算力は、ある程度身に付いている。しかし正確さや計算スピードに欠ける傾向が見られる。正負の数の計算や文字式の計算など、さらに複雑になるので計算力の向上が必要とされる。	基礎計算を必ず毎授業の初めに行い、着実な計算力を身につけさせる。また問題演習や復習問題を通して学習内容の定着度を確認する。宿題を継続して出し家庭学習の習慣の定着をはかる。
知識・理解  68.9%  66.8% (全国)	学習する上で出てくる数学的な用語やその内容を確実に習得できていない面がある。計算方法や図形に対する知識の定着が必要である。	授業ノートの指導や学習した内容の学習プリントを通して学習内容の整理と知識の確認を行う。授業の中では、振り返りを繰り返し行うことで知識の定着をはかる。大事な点は板書を工夫するなど、しっかり記憶に残るようにする。

上記の方策を生かした各学年における日々の授業の具体的な改善プラン

第1学年	習熟度別少人数授業で、生徒個々に合った授業を進め、理解力や学習意欲を高める。基礎・基本をしっかりと定着させるため、基礎計算練習を必ず復習として毎回授業取り入れる。継続的に家庭学習の宿題を出す。
第2学年	習熟度別少人数授業で基本、応用コースを利用し、生徒個々に合った授業を進め、理解力や学習意欲を高める。基礎計算練習を必ず復習として毎回授業取り入れる。継続的に家庭学習の宿題を出す。
第3学年	教科書を用いた授業を行うとともに、授業ごとに個別プリントを用意し、それに取り組む中で個に応じた指導を行う。発言を積極的に促し言語活動を取り入れる。毎回の授業で宿題を課しそれを通し基礎基本の定着と発展的な内容の習得に努める。

CRTとは4/181年生で実施された、Criterion-Referenced Test(目標基準準拠検査)のことです。

〈4/19 CRT全国学力調査からの本校の傾向と課題〉 小学校で学んだ約数、倍数の理解や立体図形に関する体積などの問題の正答率が低かった。
〈上記に対しての対策〉  1年生の学習単元の立体図形で、小学校での既習内容をしっかり確認して、立体図形に関する体積を求めることや立体図形に関する問題について、単元の中で立体モデルを作成したり、ICTを利用して立体をイメージさせるような指導をしていく。

平成26年度 教科別 日々の授業改善策 (国語・社会・数学・理科・英語)

(日野市立日野第一中学校 教科名 理科 )

1年生入学時のCRT 正答率(%)	結果の考察 (定着できているところ、不十分なところ等)	観点ごとの 授業計画の具体的な方策
関心・意欲・態度  69.9%  70.7% (全国)	例年、国の平均値を上まわっていたが、今年度は下回った。地域小学校の指導結果で、理科への関心度が高い生徒の割合が多いと考えられるので、今後さらに、中学校指導で全生徒へ科学的関心・意欲・態度を持たせたい。	科学的現象はICT活用で視覚的に紹介し、身近な科学的な現象はおもしろく紹介し、理科は楽しいという気持ちを持たせていく。 実験・観察を多く体験させ、かつ科学的な筋道の通った観察方法、実験方法を会得させていく。
科学的思考  57.3%  58.9% (全国)	全国の平均値をやや下まわっている。てこのはたらきと振り子の運動、ものの燃え方、人の体のつくりとはたらきなどは、不正解が目立った。	授業内では、考える力をつけるため、課題解決型の授業を多く取り入れていく。また、演習を多く取り入れていき、問題解決能力を高める。
観察・実験・技能・表現  75.1%  78.8% (全国)	全国の平均値を下まわっている。メスシリンダー・星の観察・石灰水を使った調べ方・酸素の捕集法の正答率が低い。そのほかの項目については平均的である。	実験への関心を高め、正確に実験を行い、しっかりと結果をだす技術を身につけさせる。特に実験・観察のまとめを念入り行い、実験の内容の定着を図る。生徒に楽しいと思わせるような、探求課題を明確にした、実験、観察を計画、実施する。
知識・理解  61.9%  66.2% (全国)	例年、他の観点に比べると、下まわる。全体的な傾向なので、改善の必要性がある。不正解の生徒が目立ったのは、でんぷんの有無・人体のはたらき・川の形状、てこなど。	ICTの活用や身近な現象の事例を多くあげるなどの工夫をして、基礎基本の知識の定着をはかる。 また、知識理解が不十分な生徒に対しては基本的な事項である小学校の内容から復習しながら小テストをこまめにおこなって、知識の定着を図る。
上記の方策を生かした各学年における日々の授業の具体的な改善プラン		
第1学年	てこの原理や質量、体積など具体的な実験を交えながら復習し、中学校の内容につなげる。また酸素、二酸化炭素、水素、アンモニアの気体実験では、発生や捕集の実験を正しく安全に行い、気体の性質を習得する。物質の状態変化では、状態変化している様子をICTの活用や実験を通して知識定着を図る。また地域の野草にも興味をもたせる。地域の3校の小学校のプランクトンをひとり1台の顕微鏡で観察させる。	
第2学年	実験がただの作業にならないように、知識・理解の上で実験を行わせるため、化学変化では、物質のつくり(原子・分子)や化学反応を記号であらわすことを先に取り上げ、次に実験を行う。実験は結果から考察することを重視し、考える時間をとるようにする。電流、電圧に関しては、オームの法則をはじめ計算問題を多く演習し、自力で解ける力をつける。細胞の学習では、一人1台顕微鏡があるので、細胞の観察スケッチをする。また豚の眼球の解剖観察などの行い、生物に興味関心をもたせるとともに、生命の大切さについて考えさせたい。	
第3学年	運動とエネルギーの単元では測定だけでなくデータ処理、グラフの作成、考察を取り入れることで思考力、表現力を高めさせる。また計算に関する演習を多く取り入れ、基礎的な計算力を身につけさせる。遺伝の学習では、目に見えない遺伝子やDNAの発見の歴史から興味関心を持たせ、染色体のモデル図を用いて知識の定着を図る。宇宙の学習では、教室では観察できない星の動きを、ICTを用いて、動画やアニメーションを確認させる。	

CRTとは、4/19に1年生で実施された、Criterion-Referenced Test(目標基準準拠検査)のことです。

平成26年度 教科別 日々の授業改善策 (国語・社会・数学・理科・**英語**)

(日野市立日野第一中学校 教科名 英語 )

観点	現 状	観点ごとの授業改善の具体的な方策
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	小学校で英語授業が導入され、興味を持って勉強する生徒と、すでに興味を失って入学してくる生徒と2極化がさらに進んでいる。新しく習う教科という新鮮味も薄れ、3年になってようやく真剣に勉強に取り組む傾向が強い。	まずは授業規律を徹底させること。そして、興味を引くような教材の提示の仕方を工夫し、ドリル的練習、ペアでの対話練習、さらには自己表現につながるような、より高度なコミュニケーション活動ができるように、段階を踏んで指導していく。
表現の能力	基本単語、基本文を覚えていない生徒は英語での表現は非常に厳しい。基本文を暗記しても、それを応用し、習った英語で自分の言いたいことを表現することも多くの生徒にとって課題である。	基本文の定着を図るため、音読練習、書く練習、対話練習の時間をしっかり確保する。また、自己表現作文やスピーチを1年次から実施し、ある程度まとまった文章を書けるよう指導していく。
理解の能力	リスニングとリーディングに分けられるが、学年が上がるにしたがって、リーディングを苦手とする生徒が多くなっていく。語彙力の不足と読む絶対量の不足が原因と考えられる。	リスニングの練習を毎回取り入れ、慣れさせる。また読めない英語は聞き取れないので、音読練習も様々な方法を取り入れていく。リーディングについては、精読と速読を授業の中でバランスよく組み込み、長文を読みこなせるよう指導していく。
言語や文化についての知識・理解	単語や文法の小テストへの意欲は高いが、学習のつまづきから、意欲の低い生徒も一部いる。基本的な文型や語彙力の定着が必要である。	語彙や文法的な知識を定着させるために小テストを定期的に行う。基礎力不足の生徒には、ノート指導や復習に力を入れ、繰り返し指導をしていきたい。
上記の方策を生かした各学年における日々の授業の具体的な改善プラン		
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新出文法事項の導入後、練習問題プリントで定着を図る。</li> <li>・小テストやスペリングコンテストを実施し、基本単語の定着を図る。</li> <li>・ノート指導を通して、学習の方法と習慣を身につけさせる。</li> <li>・既習事項を振り返るための課題を出し、家庭学習の習慣化を図る。</li> <li>・ALTとの授業等を通して、表現活動への意欲を持たせる。</li> </ul>	
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の本文の音読、暗唱を行い、基礎、基本の定着、発音の基本を身につける。</li> <li>・単語小テストを実施し、基本単語の理解度を高める。</li> <li>・既習事項を振り返るための課題を出し、家庭学習の習慣化を図る。</li> <li>・ノート指導を通して、学習の方法と習慣を身につけさせる。</li> <li>・ALTとの授業等を通して、表現活動への意欲を持たせる。</li> <li>・スピーチ、プレゼンテーションを通して、表現力を身につける。</li> </ul>	
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回授業ごとに復習プリント課題を準備し、基本事項の定着と家庭学習の習慣化を図る。</li> <li>・単語、熟語テストを毎月1度実施することにより、語彙能力の向上と定着、また家庭学習の習慣化を図る。</li> <li>・ALTとの授業は、すべてインタビューテスト(ALTとの個別テスト)を行い、コミュニケーション能力の向上を図る。</li> <li>・ノート指導を徹底し、学期に2度提出させることによって学習方法の定着を図る。</li> <li>・長期休業時は毎日30分の課題を準備し取り組ませることによって、基本事項の定着と家庭学習の習慣化を持続させる。</li> </ul>	

今までの授業

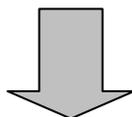
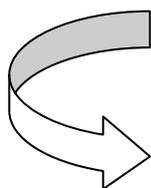
授業に対する分析  
(生徒の意欲、作品や提出物、  
試験の結果など)

原因

・毎時間、発声指導を取り入れ、今年度はハーモニー感を養うことに重点をおいている。合唱コンクールに向けて、リーダーを育て、自主的活動の中で、意欲的な取り組みを引き出している。  
・持ち物、授業中の態度・提出物等、基本的な活動を継続して指導し、きちんと授業に参加し、音楽の雰囲気作りを大切にするよう心掛けている。  
・鑑賞では、多様な音楽に触れて、心で深く感じ取る力を養っている。

・音楽の授業に対して意欲を持ち、専門的な技能を身につけたいと、楽しんで努力する反応の良い生徒もいる。反面、持ち物がきちんと揃えられなかったり、作業や実技に意欲的に取り組めない生徒もいる。  
・提出物は確実に出そうという意欲がある。また、テストに対しても前向きに取り組もうとしている。  
・期末試験に対する意欲は高いが、実技試験や、授業での取り組みに甘い面がみられる。

・音楽の授業に対して、興味関心が高い生徒と低い生徒との差がある。基本的な持ち物の準備ができないことで、授業への集中力が途切れてしまっている。  
・音楽の基本的な技能（歌・楽器）に差がある。  
・生活面での指導は、学校全体で問題点を考え、取り組む必要がある。



授業改善の具体的な方策

生徒の実態

1年…元気ではあるが、本校の近年に比べ歌うことに対して消極的な生徒も多い。女子は全般的に、授業に対して意欲的な取り組みをしている。男子は、クラスにより、集中力が途切れてしまう。  
2年…音楽を楽しもうとする心があり、全体的に前向きに取り組んでいる。ハーモニー感を徐々に身につけてきている。  
3年…授業をしっかり受けようという意識があり、リーダーの素質を持つ生徒も多く、自主的活動がスムーズに行われる。

教材研究

より効果的な合唱曲の指導方法、合奏教材の導入や、鑑賞教材の工夫、また日本音楽の取り組みなどを研究する。和楽器の研究にも重点を置きたい。

指導方法

表現に関しては、できるだけわかりやすい具体的な発声方法に力を入れ、個々の表現を大切にしながら、個に応じた適切でわかりやすい指導を心掛ける。忘れ物に関しては、適宜注意をしていく。また、提出物に関しても全員が出せるように指導していく。

学習環境

音楽活動をするのにふさわしい空間であるよう教室整美に心掛け、雰囲気づくりを大切にする。多様な音楽になるべくたくさん触れられるよう適切な教材準備、機材配置をし、興味関心を呼び、広い心の育成ができるような環境に努める。

指導計画

生徒の実態に合わせて、学期ごとに計画的に考え、年間を通してバランスの良い指導計画を立てていく。

評価方法

実技テストや鑑賞文では、その単元・教材のねらいが評価に反映できるよう評価方法を工夫する。また、評価の観点をわかりやすく伝える。結果だけでなく、取り組みの過程も評価に取り入れる。プリント類の評価も重視しているので、確実に出せるよう、一人ひとりの声かけを大切にしていく。

今までの授業

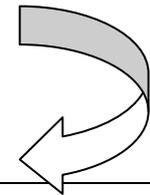
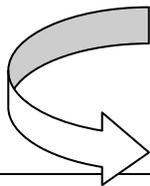
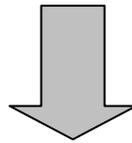
授業に対する分析  
(生徒の意欲、作品や提出物、  
試験の結果など)

原因

- ・ファイルを活用することで、生徒の制作状況把握や個別指導の資料として指導に生かしていた。
- ・絵が苦手な生徒に、描画法の指導を個別に行った。
- ・静かに集中して作業させるために、「相談禁止」「必ず前を向いて作業」等の約束を設けた。
- ・個々人が制作に必要な資料をコピーしたり、PCで検索、プリントアウトするなどして渡している。

- ・意欲的に制作に取り組む生徒が多い。
- ・発想に時間がかかる生徒や発想が広がらない生徒が増えている。
- ・周りの生徒と話したりして、集中不足のため制作が進まない生徒がいる。
- ・予定指導時数内で完成しない生徒が少なくない。
- ・1年生の作品提出率は高いが、2年生の作品提出率が低い。

- ・基礎基本技能の差。(今までの造形経験の差による)
- ・授業時数の不足。
- ・自分の価値観や自分にとって大切なイメージについて考える経験が少なく、イメージがやや乏しい生徒が多い。
- ・一部の生徒は主体的、前向きに制作する意識が低い。



授業改善の具体的な方策

第1学年

第2学年

第3学年

教材研究

- ・3年間の発達を考慮し、各領域の課材を設定。
- ・鑑賞については、原始、古代から現代までの美術史をたどりながら美術文化の意味や価値、表現の工夫を学ぶことができる教材を作成する。修学旅行事前学習についても社会科と連携しながら鑑賞教材を充実させる。
- ・ルネサンス以降の西洋美術史に関する鑑賞の内容を精選する。

生徒の実態

- ・アイデアが浮かばずに、制作に取り掛かるまでに時間がかかる。また、図録の丸写しに頼る生徒が見られる。
- ・メ切間際になって補習で作品を完成させようとする生徒が多い(3年生)。

指導方法

- ・資料を見に行ったり、クラスメイトと相談する時間を制限する。
- ・具体的に作例や実演を見せ、作り方を分かりやすく説明する。
- ・アイデアスケッチメ切の期限を早め制作が遅れないようにする。

学習環境

- ・生徒の制作意欲やイメージを刺激するような素材や用具を豊富に用意する。
- ・素材集、図鑑等の冊数を増やし各自の机で落ち着いて作業させる。

指導計画

- ・生徒の実態を把握して、指導計画を立てる。
- ・十分な教材研究に基づく無理無駄のない指導計画を立てる。
- ・補習に頼らずに作品を完成させるよう、前もって伝えておく。

評価方法

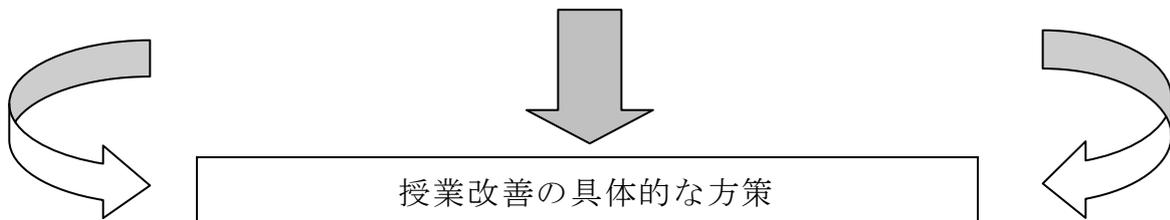
- ・評価方法については、課題説明の時に説明。
- ・授業記録、期末テスト、締切日における完成度合いなど、評価材料と評価基準を明確に定める。
- ・評価基準が一定になるように条件を整えて評価する。

今までの授業  
 授業に対する分析  
 (生徒の意欲、作品や提出物、  
 試験の結果など)  
 原因

・規律を大切にし、説明、指示を的確に行う。  
 また、運動量も確保するようにした。  
 ・授業カードを使用し、生徒のそれぞれの力を十分に引き出すように、細かく指導して励ましの声かけを行った。  
 ・ICTの活用がかなり進み、生徒に視覚的に理解させることが多くなってきた。さらに工夫をしていきたい。

・体を動かすことが好きな生徒が多く、意欲的に取り組んでいる生徒が多い。  
 ・不得意な種目や辛い種目に対してははじめから諦めている生徒が固定数いる。  
 ・提出物は、出す出さないの二極化をしている。

・苦手意識がある種目では、充実感や達成感、成功体験を味わった経験がない。  
 また、他人の目を気にして、思い切り取り組む姿勢を見せない生徒もいる。  
 ・提出物を出す習慣がない。提出物の大切さを理解していない。



生徒の実態

\*運動が好きな生徒が多く、基礎体力も上がってきた。一部種目によって苦手意識が強い生徒がいる。授業カードの記入が、ていねいに書く生徒、雑に書く生徒が決まっている。また、提出物の二極化がある。

教材研究

\*生徒が意欲的に取り組める教材を心がける。  
 \*他の先生と教材の情報交換を行ったり、授業見学に行き授業方法の改善・向上に役立てる。

指導方法

\*『本時のねらい』を示し、生徒が見通しを持って授業に取り組めるようにする。  
 \*結果だけでなく、過程も大切にしながら、生徒ひとりひとりの成長に目を配り声かけを行う。

学習環境

\*ICTを取り入れ、視覚的に‘わかる授業’を工夫する。

指導計画

\*年間指導計画に沿って授業を行う。

評価方法

\*提出物や忘れ物など、技能の結果だけでなく努力を認める評価方法の工夫をする。  
 \*技能については初めに持っている力と授業を重ねたうえで伸びたいいわゆる‘伸びしろに’についても評価に入れるようにする。

今までの授業

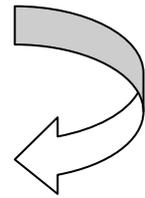
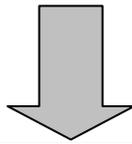
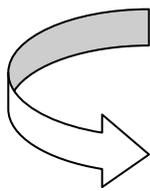
授業に対する分析  
(生徒の意欲、作品や提出物、  
試験の結果など)

原因

- ・授業内容の記録。
- ・各時間の目標を明確にする。
- ・その作業に取り組める時数を明確にする。
- ・作業の到達チェックを細かく実施。
- ・わかりやすい説明を心がける。
- ・丁寧な個別指導。
- ・プリントの実施。
- ・プリント内容の見直し。
- ・指導案の充実。
- ・言語活動の充実。
- ・ICTの活用。

- ・作品の製作進度にばらつきがでてしまう。
- ・一斉指導についていけない生徒がいる。
- ・図面をかいたり読んだりすることが苦手な傾向がある。
- ・自分のアイディアを言葉で伝えることが苦手な生徒がいる。

- ・技能や理解の個人差が大きい。
- ・個別指導の時間確保が足りない。
- ・空間的な認知力が不足している。
- ・考えを伝える力が不足している。



授業改善の具体的な方策

生徒の実態

興味・関心が高い生徒が多く、授業に対して意欲的に取り組む生徒が多い。しかし、授業の内容が理解できないとやる気をなくしてしまい、作業に取り組めない生徒がいる。

教材研究

生徒が興味・関心を持てるような教材の開発を行う。またワークシートや授業の組み立てを工夫し、言語活動を取り入れる。

指導方法

実習中は机間巡視を行い、個別的に指導する時間を確保する。作業方法を演示するときには、全ての生徒が見やすいように、書画カメラ等のICT機器を活用する。

学習環境

作業スペースを確保し、生徒がスムーズに実習が行える教室環境を整備する。また、プロジェクターやマグネットシート等を設置し、実習の手順が確認しやすいように工夫する。

指導計画

3年間を通して、4領域がバランスよく配置できるように年間指導計画を作成する。また、題材ごとに指導計画を作成しすべての単元で言語活動を取り入れる。

評価方法

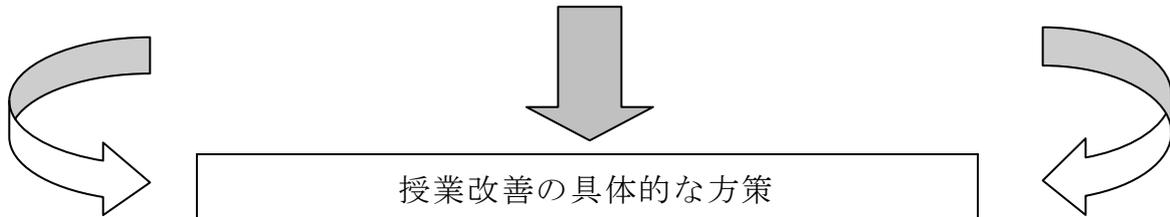
評価計画を作成し、学期始めに評価基準や観点を生徒に伝える。特に第3学年は授業時数が少ないため、生徒が評価を意識して授業に取り組めるように配慮する。

今までの授業	授業に対する分析 (生徒の意欲、作品や提出物、 試験の結果など)	原因
--------	--	----

- 生活に必要な技術・知識を身に付けさせるために実践的な活動を取り入れていく。
- 生徒が創意工夫を凝らし、意欲的に取り組めるよう、教材を精査する。
- 取り組むべき課題について、その時間の目標を明確にする。
- 作業の進捗チェックを細かく実施して、作業の様子を把握する。
- 作業が遅れる生徒の放課後の補習時間の確保。

- 能力の差が大きく、終わった生徒への課題が必要になる。
- 提出物の状況が悪いため、その都度補習が必要である。
- 道具を用意できない生徒が若干名いる。
- 作業に集中できない生徒が若干名いる。
- 期末考査のための学習時間は少ないようで、結果は良くない。

- 自分の力では作業が進められない生徒が多い。
- ミシンの作業では、何をどうしたらいいのかわからないで、そのまま黙っている生徒がいる。
- 家庭科に対する関心・意欲の低さ。
- 実技に関する基本的な事柄が身に付いていない。学習しても定着しない。(玉止め、玉結び、並み縫い)



生徒の実態

- 授業の持ち物や場所の連絡が徹底されるように、教科係りとの連絡システムを確実にする。
- 作業では安全に気を付け、落ち着いた環境で作業できるように指導する。
- 学校の用具を使用する際は丁寧に使い、使用後の後片付けを徹底する。

教材研究

- わかりやすい授業にするためにワークシートを工夫し、期末考査の学習に取り組みやすいように工夫をする。
- 実生活に生かせる教材や生徒たちが興味をもてる授業内容をできるだけ取り入れる。

指導方法

- 全体的な指導と共に個別指導を重視していく。
- ICTを利用し、視覚的にわかりやすく工夫をする。
- 学習したことが実生活に生かせるような課題を工夫する。

学習環境

- 作業はすべて学校で行い、作品は家庭科室で管理する。
- 毎時間の目標を決めて授業を進める。
- 教室の整理整頓に心がける。用具の出し入れでは、生徒の動線を考えてスムーズに行えるように工夫する。

指導計画

- 教材教具の充実に関心する。安全面に気をつける。
- 年間指導計画に従って進める。

評価方法

- プリント・ワーク・作品の点検を細やかに行い、生徒の学習状況を把握する。
- 生徒の日々の学習の成果を評価につなげていく。